

「広島修道大学 学修キーワード集」

凡例

1. 以下の用語は五十音、数字・アルファベットの順序で並べています。
2. 『 』で示されるのは本学で発行される資料の名称です。資料の中には、冊子体ではなく、公式WEBサイトに掲載しているものもあります。(例：2023年度以前生『学修の手引き』、2024年度以降生『学修ガイドブック』)
3. 【 】は場所を示します。

● あ行

インターナショナルハウス 中区広瀬北町にある本学の留学生専用宿舎。単身用 36 室、家族用 5 室がある。主として協定校から受け入れた交換留学生が入居している。留学生の生活サポートのため数名の日本人学生も RA (レジデント・アシスタント) として居住。宿舎としてだけでなく国際交流・地域交流の場としても活用されている。通称は「iHouse (アイハウス)」。

インターンシップ 三省合意文書によると、「学生がその仕事に就く能力が自らに備わっているかどうかを見極めることを目的に、自らの専攻を含む関心分野や将来のキャリアに関連した就業体験を行う活動」。

演習 (科目) 大学における授業方法の1つ。参加学生が研究発表をしたり、全員で討論を行ったりする参加型の授業で、比較的少人数で運営される。ゼミナール (ゼミ) とも呼ばれる。

オープンバッジ 世界共通の技術標準規格によって発行されるデジタル証明書。本学では、修道スペシャルプログラムの修了要件を満たした者に発行。

オフィスアワー 教員が授業以外で学生の質問に応じるための時間。各教員が曜日や時間を設定している。この時間には教員の研究室を直接訪ねてもよい (要予約)。まなびコモンズでは、オープンスペースで質問しやすいセンター・オフィスアワーを希望教員により実施している。オフィスアワーは、公式WEBサイトの「教員データベース」から確認できる。

オリエンテーション 新しい環境などに順応させるための指導、説明、講習のこと。本学では、新入生に対する説明会を指すことが多い。

音楽実習棟 小学校教諭免許取得希望者への支援を主たる目的として建てられた実習棟。音楽実習室とピアノ実習室がある。利用方法等は『CAMPUS LIFE』参照のこと。【修大フォーラム横】

オンデマンド授業 非対面型授業のうちのひとつ。指定された期限内であれば時間に制限されることなく受講することができる。オンデマンド授業の配信のツールとしてよく利用されるものとして Moodle や Google Classroom などがある。

オンライン授業 インターネットを介して実施する授業方法。非対面型授業で用いられる。

● 知行

海外セミナー 語学研修や文化体験を目的とし夏季休暇、春季休暇または第3学期（夏季休暇後）を利用して海外の協定校で実施される主に短期の留学プログラム。3カ月以上の中期プログラムもある。詳しくは、公式WEBサイト 留学・国際交流の「留学情報サイト」を参照のこと。

海外留学プログラム 「留学」の項を参照のこと。

開講・不開講 授業科目の中には毎年度授業が実施されないものがある。授業が実施されることを開講、実施されないことを不開講と呼ぶ。「開講・不開講」の状況はWEBシラバスの科目配当表に表示される。

ガイダンス 案内、手引きを目的とした説明会のこと。教学センターが行っている履修ガイダンスや教職・資格課程に関するガイダンスのほか、就職ガイダンス、文献検索ガイダンス、学友会ガイダンス、サークルガイダンスなどがある。

学位 学術上、一定の業績または能力を示した者に対し、審査した結果与える称号。本学では、学士、修士、博士がある。

学位論文 学位認定審査のために提出する論文。修士論文、博士論文などがそれに当たる。

学士 学部を卒業した者に与えられる学位。

学士入学 大学などで学士の学位を取得した者が3年次に入学できる制度。

学習カルテ ShuR（シューアール）の項を参照のこと。

学習支援センター 学習に関するさまざまな相談をすることができる部局。常駐の日本語、英語の学習アドバイザーがいて、気軽に学習相談できる。【協創館(8号館)1階】

『学修ガイドブック』 2024年度以降生向けに教学センターが発行している卒業要件や履修科目、履修上の留意点など本学における学修のきまりを説明したガイドブック（2023年度以前生は『学修の手引き』）。教職課程・保育士課程・社会教育主事課程を履修する人のための『教職課程・保育士課程・社会教育主事課程ガイドブック』もある。

学修評価 学業成績の評価は、AA、A、B、C、Dの5段階をもって行い、Dを不合格とする。評価の基準は、①AA 90点以上100点まで、②A 80点以上89点まで、③B 70点以上79点まで、④C 60点以上69点まで、⑤D 59点以下、とする。なお、X（エックス）は評価不能を示し、無得点とする。詳細は『学修マニュアル』を参照のこと。

学修ポートフォリオ 自分の学習過程や学修成果を蓄積したもの。本学では、学習カルテ (ShuR)から作成できる。半期ごとの成績発表後に入力・作成すること。

『学修マニュアル』 学修に関する制度（授業や履修登録手続き、試験、成績評価方法・GPA などについてなど）について説明したもの。公式 WEB サイトで閲覧できる。

学生センター 学生の身近な学生生活支援に関わる部局。学生の課外活動、奨学金、駐車・駐輪許可証の申請受付、学割、落とし物、学生証の再発行、その他学生生活に関するすべての相談に応じている。【本館 2 階 広島銀行 ATM 向かい】

学生証 本学の学生であることを証明するもの。図書館利用カード、出席登録カード、広島修道大学生協同組合員証、修道マネーカードを兼ねた IC カード。再発行には 2, 000 円かかるので、紛失しないよう取り扱いに注意すること。詳しくは『CAMPUS LIFE』を参照のこと。

学生相談室 さまざまな悩みや疑問についてカウンセリングを中心としたサービスを提供している。【本館 1 階】

学籍番号 学生個人に与えられる 7 桁の固有の番号。在籍期間中あらゆる手続きや試験に利用される学生の身分証明番号。

学則 在籍者の修学上必要な事項を定めた規則。公式 WEB サイトで閲覧できる。

学長表彰制度 学生やサークル団体等が、学術・芸術・社会・体育・文化活動等の分野で模範的な成績を修めたり、貢献した場合に顕彰される制度。学長賞と学長奨励賞の 2 つがある。

学年暦 大学の 1 年間のスケジュール表。公式 WEB サイトで閲覧できる。

学費減免 諸納付金減免のこと。休学の場合の諸納付金減免や、私費外国人留学生を対象とした諸納付金減免等がある。私費外国人留学生で減免を希望する学生は、各年度諸納付金減免申請をする必要がある。休学の場合は、休学願に添付してある「諸納付金減免許可願」をあわせて提出する。

学部 大学における基礎となる専門分野別の組織。本学の学部は商学部、人文学部、法学部、経済学部、人間環境学部、健康科学部、国際コミュニティ学部の 7 学部。

学部生 修士課程や博士課程の大学院学生に対して、大学の学生を区別して呼ぶ名称。

『学友』 学友会の発行する冊子。サークルの紹介などが載っている。

学友会 全学部学生（学友）で構成されている学生自治組織。詳細は『学友』を参照のこと。

学期 大学においてカリキュラム（教育課程）を計画的に実施するために、一学年（4月1日から翌年3月31日まで）を区分した一定の期間を指す。本学では1年間を前期・後期の2学期（ Semester制）に分け、さらにそれぞれを2分割し、1年間を第1学期から第4学期の4学期（ターム制）で構成している。学則上は、前期は4月1日から9月25日まで、後期は9月26日から翌年3月末日までである。具体的な授業期間は、毎年度学年暦を確認すること。

学研災 学生教育研究災害傷害保険の略。大学が保険料を負担し、本学学生全員が加入している。授業中や課外活動中の怪我等に対する保険で、保健室が窓口となっている。

学校教育インターンシップ（授業） 教員免許の取得を目標としている学生が対象（単位認定あり）。幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などのうち、希望する校・園で、現場が必要とする教育活動の支援活動を継続的に行う。

科目等履修制度 社会人などが、大学・大学院で特定の科目を履修し、当該大学・大学院がその単位を認定する制度。学部科目等履修に関しては、短期大学・高等専門学校卒業、又は大学に2年以上在籍し62単位以上修得した等の基礎資格を持っていれば、4年制大学の科目等履修生として修得した単位とあわせて学位授与機構に申請し、学士の学位を修得することも可能。

カリキュラム（教育課程） 教育内容を学修段階に応じて示したもの。

カリキュラムツリー 授業科目群の順序性・体系性をディプロマ・ポリシー（DP）と関連付けて、学位を取得するための履修のイメージを示した図。

カリキュラムポリシー（CP） ディプロマ・ポリシーを踏まえたカリキュラム編成や学修方法、学修成果の評価の在り方等を具体的に示したもの。

カリキュラムマップ 各授業科目とディプロマ・ポリシー（DP）を関連付けて、卒業までに身につけるべき能力と、各授業科目の対応関係を示した表。

既修得単位 すでに修得した単位。入学前に修得した単位を入学後の単位として認定するときなどにも使う。

規程 学則が大学の基本的なことを規定しているのに対して、規程は特定の事について規定しているもの。本学の場合、学則に準じて、学位認定、資格取得、留学や奨学金などの制度上の決まり事を定めている。

キャリア支援講座 学内で受講できる能力向上や資格取得のための講座。キャリアセンターで運営を行っている。課外講座のため有料だが、学外で受講するよりリーズナブルな価格で受講できる。

キャリアセンター 学生の就職支援と将来のキャリア形成のためのキャリア教育支援を行う部局。企

業・団体等の求人情報、過去の本学卒業生の進路先及び就職実績等のデータ、会社案内、就職関係資料や書籍、新聞、公務員関係資料等が揃っている。就職活動及び進路全般についての相談を受け付けている。【本館 2 階】

休学 学生が疾病その他やむを得ない事由により 3 カ月以上就学することができないときは、学長に願い出て許可を得たうえ、休学することが可能になる。休学しようとするときは、「休学願」に保証人連署で署名・捺印のうえ、指導教員またはチューターの承認印を受けて提出することが必要。教学センター窓口にて手続きを行う。なお、休学期間中の学費減免を希望する場合は、「諸納付金減免許可願」を合わせて提出する必要がある。

休講 授業が休みになること。交通機関のストライキや台風等自然災害に伴い授業を休講することもある。事前に教員から届出のある場合は、休講情報として WEB（教学システム）で確認できる。

教学システム 履修登録や住所変更などを WEB 上で行う学内システム。時間割及び休講・補講情報の確認ができるほか、授業に関する「お知らせ」が届いたり、「アンケート」に回答したりすることができる。

教職課程 本学では、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・栄養教諭の免許状が取得できるよう、教育職員免許法に基づいて教職課程を開設している。卒業に必要な単位のほかに教育実習をはじめとする規程に定められた所定の科目を履修し、単位を修得する必要があるので 1 年次の履修登録時から綿密な計画が必要。『教職課程・保育士課程・社会教育主事課程ガイドブック』を参照のこと。

教学センター 教学センターは、大学における「教」と「学」のサポートを行う部局。学科目の編成、授業、履修、試験、成績に関すること、入学・卒業に関すること、休学・退学等の身分異動や教職課程その他の資格課程に関すること、さらには在学証明書、成績証明書、卒業証明書等の各種証明書の発行も担当している。【5 号館 2 階】

協創館 8 号館の建物名称。1 階に国際センター、学習支援センター、まなびコモンズ、まなびホール、まなびラボ、iCafe、地下 1 階にひろしま未来協創センター、ひろみらスタジオ等がある。さらに、2 階には GLS (Global Learning Studios)、3 階から 4 階には教室及びこころ LAB (心理学実験室等) がある。

クラス指定 必修科目等において、履修するクラスを指定されること。学籍番号順、レベルなどで分けられる。

掲示板 掲示板は大学からの重要な情報が貼り出される場所である。教学センター、学生センター（保健室、学生相談室含む）、キャリアセンター、図書館、協創館、ピア・カウンター、学友会等に掲示板がある。サークル等が掲示板を使用する場合は、学友会に届け出なければならない。

欠席届 病気ややむを得ない事由で授業を欠席しようとする場合に、担当教員に提出する書類。「欠席届」の用紙は教学センターにある。1カ月以上3カ月未満の場合は長期欠席となるので、教学センターに相談すること。

研究室 教員の個人研究室は、3号館、7号館、9号館と第2研究棟にある。3号館1階、7号館3階、9号館3階、第2研究棟1階には、教員のメールボックスがある。教員に面会を求めるときは、受付の内線電話を利用するか事務室を通して事前に連絡をすること（事前に教員に連絡を取り、予約することが望ましい）。

後援会 本学に在籍する学生の保証人（保護者等）を会員とする組織。100円朝食や花壇植栽など学生生活の充実に関する助成や特別事業のほか、保証人を対象に後援会総会や教育進路相談会等のイベントを開催している。

交換留学 本学の学生と海外協定校の学生とを相互に派遣するプログラム。本学の学生は、約1年間又は約半年間、交換留学生として派遣先の大学で基本的に正規の授業を受講する。派遣先大学で修得した単位は本学の単位として認定されることがある。また、派遣先大学での授業料は、本学へ通常の授業料を払うことで免除される。

講義（科目） 大学での授業形態のひとつ。教員の説明を中心に行われる授業。

公認欠席 公認欠席に該当する事由により授業を欠席する場合は、公認欠席届に証明書を添えて教学センターに提出すること。提出された公認欠席届と証明書等を確認し、公認欠席が認められると判断した場合は、教学センターが授業担当教員に連絡を行う。該当する事由については、『学修マニュアル』を確認すること。公認欠席により定期試験が受験できない場合は、別途追試験願を提出すること。

国際センター 留学生と本学学生・教職員間の交流、学生の海外派遣、留学生の受入などを行う部局。「インターナショナルハウス」や「iCafe」の運営、交換留学生をサポートするパディ制度なども実施している。【協創館(8号館)1階】

ことばラボ（語学自習室） 発音練習、シャドーイング、リスニング等の語学学習を優先的に行う自習スペース。語学学習と合わせ、インターネットの利用やMicrosoft Word・Excel・PowerPointを利用することもできる。GLS事務室内のICカードリーダーに学生証をかざし、利用するパソコン番号をタッチパネルで指定してから利用する。【協創館（8号館）2階】

コマ 時間割の1時限分をいう。

●さ行

再入学 退学者または除籍者が、再び同じ学部・学科・専攻の相当年次に戻ることに。

再履修 修得できなかった科目を再び履修すること。科目によっては再履修できない科目もあるので、

要注意。

資格課程 本学には、教職課程・保育士課程・栄養士課程・食品衛生管理者課程・社会教育主事課程等、多様な資格課程がある。教職課程・保育士課程・社会教育主事課程については、『教職課程・保育士課程・社会教育主事課程ガイドブック』を参照のこと。栄養士課程・食品衛生管理者課程については、『学修ガイドブック』を参照のこと。

資格取得学生表彰 在学中に国家資格等を取得した場合に表彰する制度。資格の難易度別に、最優秀賞、優秀賞に分かれている。

事前事後学修 学則では、授業時間外に必要な時間は、2単位の講義科目で半期15回の90分授業の場合、授業1回につき合計3~4時間の事前事後学修が目安と定められている。1単位の外国語科目で半期15回の90分授業の場合、授業1回につき合計45分~1時間の事前事後学修が目安。各科目の授業外学修時間の目安はシラバスに記載されている。

実習(科目) 実習中心の授業科目。実習科目には、運動スポーツ実習や心理学実習、臨地実習等がある。

事務局 大学事務局のこと。総務部、財務部があり、広島修道大学全体の運営に関する事務を取り扱っている。学費の納入などは、財務部経理課が担当している。【本館3階】

事務取扱時間 各部局の窓口受付時間のことであり、平日の8:45~16:45をさす。ただし、11:15~12:15は事務取扱を停止。図書館や情報センター、学習支援センターの開室時間はこれと異なるので確認が必要。

社会教育主事課程 社会教育主事は、地方公共団体の教育委員会の事務局職員のうち、社会教育を行う人に専門的・技術的な助言と指導を与えることを任務とする専門職員。この資格を取得するためには、大学に2年以上在学して62単位以上を修得し、社会教育に関する科目の単位を修得することが必要。この課程は、教育学科・社会学科・人間関係学科・地域行政学科に在籍する学生のみ履修可能。また、社会教育主事課程の修了者は「社会教育士(養成課程)」と称することができる。詳しくは、『教職課程・保育士課程・社会教育主事課程ガイドブック』を参照のこと。

修業年限 大学の教育課程を修了するために必要な在学期間をいう。学部の修業年限は4年。ただし、休学期間を除き、8年を超えて在学することはできない。

修士課程(博士前期課程) 学部の上に設置された大学院の課程で、標準修業年限は2年。広い視野に立って、精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。博士後期課程が設けられている場合は、博士前期課程と呼ぶ。

自由選択科目 全学共通科目、主専攻科目とならぶ科目区分のひとつ。他学部、他学科の主専攻科目を

履修し修得した単位は、自由選択科目に算入される。

『就職活動ガイドブック』 3年生に配られるキャリアセンターが発行するガイドブック。就職活動のさまざまなノウハウが詰まっている。

修大会 広島修道大学卒業生で組織されている広島修道大学同窓会の支部組織のこと。全国 20 カ所にある。

修大公式 WEB サイト 大学のニュースやイベント告知、取り組み事業などを紹介し、本学に関する様々な情報を知ることができる。学生生活支援に関する情報も掲載され、在学生に役立つ情報も多数あり。

集中講義 特定期間に集中して実施する講義。主に夏季休暇中、冬期休暇中に行われることが多い。実施日・時限・教室は、教学システムの「お知らせ」で確認すること。

修道スペシャルプログラム(Shudo Special Program: SSP) (2024 年度以降生対象) 学生の多様なニーズに対応しながら、幅広い知識や複眼的視野をもち、社会状況の変化に対応できる人材を育成することを目的とし、学科の主専攻科目、全学共通科目などの枠を越え、特定のテーマに関連する科目で構成されている。WSP (World Stage Program: ワールド・ステージ・プログラム)を除き、修了した場合は、オープンバッジが発行される。

授業アンケート よりよい授業にするために実施されるアンケート。履修者を対象として教学システムにて行われる。その集計結果は、公式 WEB サイトで公開している。

出席調査 担当教員に提出する出席カード(コンピュータ処理用)で出席をとる場合と IC カードリーダーに学生証(IC カード)をかざすことにより出席をとる場合がある。IC カードリーダーの稼働時間は授業開始 15 分前から授業開始後 10 分まで。少人数の授業では点呼で行われる場合もある。出席状況は教学システムで確認できる。

出席システム不具合届 学生証の不具合で読みとれない事態が生じた場合の緊急処置として提出する。出席システム不具合届(教学センター内にある)は、学生証と一緒に、授業開始時に担当教員に提出すること。

奨学金 経済的理由により修学が困難な学生や、能力を生かしてより充実した学生生活を送りたい学生のために、学資を援助する制度。日本学生支援機構奨学金や本学独自の各種スカラシップなど様々な制度があり、窓口も異なるので、『CAMPUS LIFE』を参照のこと。

情報演習室 6号館3階・4階のPC教室を総称して「情報演習室」と呼び、主として情報教育関係やゼミナールの授業に利用されている。フリーラボ(自由演習室)に Windows パソコン 32 台が備えてあり、開室時間であればいつでも利用することができる。【6号館3階・4階】

情報教育サポート室 情報処理科目の課題についての質問、Word・Excel・ネットワークなどに関する質問をサポートする。【6号館2階】

情報講義室 ノートPCが配置された6201、6202、6205および6206教室を総称して、「情報講義室」と呼ぶ。6206教室の隣に情報教育サポート室がある。【6号館2階】

情報センター 情報施設・設備ならびにデータの有効利用の推進、情報に関する教育および研究の支援などを担当する部局。【事務室：6号館3階】

証明書発行機 教学センターにある、JR学割証、在学証明書、成績証明書、健康診断証明書等を発行する機械。発行には学生証と発行手数料が必要。

小学校課程実習棟 教職課程（小学校）の授業実施のために設けられた教室であり、家庭科、生活科、理科等の授業で使用される。【1号館横】

初修外国語 英語と日本語を除く5つの外国語科目。ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国・朝鮮語。

除籍 本学学生としての身分を失うこと。学部生の場合、在学年数が8年を超える場合、または所定の諸納付金の納付を怠り、督促を受けても納付しない場合、除籍される。

初年次生 大学1年生のこと。

シラバス 授業科目ごとの詳しい授業計画。一般に大学の授業名、講義目的、各回の授業内容、成績評価方法・基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考書、履修条件が示されている。履修選択のときや、予習等を進めるための基本となる。必ず読んでから履修すること。

シングルサインオン 1つのIDとパスワードを入力して、複数のWEBサービスやアプリケーションにログインする仕組み。本学のシステムでは、alphaメールの送受信やalphaアカウントのパスワード変更、学習カルテ(ShuR)などのサービスを利用することができる。

スカラシップ 給付奨学金のこと。本学独自のスカラシップには、成績優秀な在学学生に給付される在学学生スカラシップ、資格取得スカラシップ、国際交流スカラシップなどがある。詳細は『CAMPUS LIFE』を参照のこと。

生協ブックストア 本やテキストの購入、修大マネーのチャージができる。【2号館1階】

成績 「学修評価」の項を参照のこと。

成績評価に対する異議申し立て 成績評価について疑義がある場合には、異議を申立てることができる。異議を申立てる場合は、「成績評価に対する異議申立書」を教学センター窓口に提出すること。異議申立期間は、原則として成績発表日を含め、大学の業務停止期日を除く3日以内。教学センターは、授業担当教員が作成した「成績評価に対する異議申立書への回答書」を申立てた学生に提示する。学生が回答書の内容に異議がある場合は、授業科目担当教員、学生及び教学センター職員で面談を行う。

成績発表 成績は、学年暦に指定された日時に学習カルテ (ShuR)の成績情報にて発表される。

ゼミナール (ゼミ) 「演習 (科目)」の項を参照のこと。

Semester制 前期または後期の学期ごとに授業が完結する制度。「学期」の項を参照のこと。

全学共通科目 全学部を対象にして行われる科目 (2024年度以降生対象)。学部、学科の違いに関わらず、大学生であるなら誰もが学ぶことができる学問分野を領域別、目的別に配置した科目を意味する。地域理解科目、国際理解科目、一般教養科目、スポーツ・健康科目、キャリアデザイン科目、データサイエンス科目からなる。4年間で、深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を養っていくための土台となる幅広い知識・技能を、自ら選び身につけること目的としている。詳細は『学修ガイドブック』を参照のこと。

前期末卒業 前期末で卒業すること。在学5年目以降や休学等により前期末で4年の在学期間を満たし、かつ卒業所要単位を満たす場合に対象となる。対象者には教学センターから案内があるので、前期末卒業を希望する場合は、所定の手続きを行うこと。

早期卒業 3年次年度末に卒業すること。定められた卒業所要単位を優秀な成績で修得したと認められ、卒業時に大学院への進学が決定している場合にのみ所定の手続きを経て認定される。問い合わせは教学センター所属学部窓口へ。

卒業延期 卒業所要単位を満たすことができず4年より多く在学すること。

卒業所要単位 卒業資格を得るための必要修得単位数。

卒業見込 所定の単位を修得し、卒業が見込まれている状態のこと。卒業見込証明書は4年次前期履修登録後、卒業要件を満たす見込みのある学生のみ発行できる。

卒論・卒研 卒業論文・卒業研究のこと。

● た行

ターム制 「学期」「4学期制」の項を参照のこと。

退学 規定の修業年限を終えないうちに大学をやめること。退学しようとするときは、「退学願」に保

証人連署で署名・捺印のうえ、指導教員またはチューターの承認印を受けて提出することが必要。手続きは教学センター窓口。

大学院 大学の学部の上位に置かれ、学術の理論と応用を研究し深奥を究める機関。「修士課程（博士前期課程）」、「博士課程」の項を参照のこと。

対面授業 大学に来て教員と対面し、決められた教室で受ける授業。

他学部履修・他学科履修 他学部または他学科の授業科目を履修すること。履修できる科目は定められている。修得した単位は、自由選択科目の卒業所要単位に算入。2023年度以前生は副専攻コースとして履修することも可能。

単位 本学では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としている。講義・演習の授業科目では、15時間の授業と30時間の授業外学修学生の学修時間45時間が1単位分（90時間で2単位として取り扱う）。その内訳は15時間の予習+15時間の授業+15時間の復習。つまり、90分（2時間と換算）の授業を1週に1回行い15週繰り返して2単位の場合、計60時間の予習、復習が必要だということになる。

単位互換制度 教育ネットワーク中国に加盟する大学や本学が協定を結んでいる他の大学・短大で履修した単位を認定する制度。この制度により認定できる単位は、入学年度、学部によって異なる。詳しくは『学修ガイドブック』を参照のこと。

単位修得の認定 単位修得の認定は原則として試験によって行われるが、平常の学業成績またはレポート提出によって試験に代える場合がある。試験の採点は100点満点で採点され、60点以上の成績があれば、その授業科目の所定の単位の修得が認められる。

単位認定 単位として認めること。単位互換や留学による単位認定がある（2023年度以前生については、検定や資格試験についても単位認定制度あり）。卒業所要単位に含まれるか否かなど、詳しくは『学修ガイドブック』を参照のこと。

地域つながるプロジェクト 地域の各種団体と連携し、地域課題の解決に向けた企画・実施や調査・研究を行うことで、主体性や豊かな人間性を育み、大学で得た知識を地域で実践・還元するプロジェクトである。学生は、活動したい地域や連携先を自ら探して課題に取り組む「課題自由型」、地域団体から提示された課題に取り組む「課題設定型」、地域課題の発見や地域と協働するための心構えや知識を身に付ける「発見型」から選択できる。詳細は、ひろしま未来協創センターに確認すること。

チューター 学生生活のアドバイザーとなる教員。「指導教員」と言うこともある。学生個々にチューターとなる教員が決まっていて、休学・退学などの「身分異動」の書類には、チューターの承認印が必要となる。また、修得した単位が基準以下となったり、特定の科目が修得できなかったりした場合にはチューターとの面談が行われる。

追試験（追試） 病気その他やむを得ない事由で定期試験を受験できなかった場合、本人の願い出により行われることがある試験。追試験願と医師の診断書が当該責任機関の証明書を添え、試験期間終了後3日以内に教学センターへ願い出ることが必要。

通年科目 前期・後期1年を通じて授業を行う科目。

定期試験 学期末の一定期間に行われる試験のこと。

ディプロマ・ポリシー（DP） 学位授与の方針。卒業までに身につけるべき資質・能力について、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「協創力」の区分ごとの目標を明示したもの。

転部・転科 転部は、学内の他学部に移ること。転科は、同一学部内の他学科に移ること。学部により志望する学生を募集することがあるが、募集がなければ、転部・転科をすることはできない。転部・転科は、1年以上の在学期間と33単位以上の修得が条件で、第2学年に編入される。したがって1年次の後期に出願するのが望ましい。

図書館 教育・研究ゾーンの中心に位置し、図書92万冊、雑誌約11,000タイトル、視聴覚資料約25,000点を所蔵している。図書の貸出だけでなく、PCでの情報検索、新聞、雑誌の閲覧、レポート作成などの目的で多くの学生が集まる。授業期の10時から16時30分の間は、図書館ピア・サポーター（本学学生スタッフ）が館内に常駐し、利用中、困ったことがあった時には相談できるようになっている。本学に所蔵のない図書は、購入希望を出すことができる。

取消再履修 既に単位を修得した授業科目の成績を上書きすることを目的として履修すること。取消再履修が承認された授業科目については、既に単位を修得した同一授業科目の成績及び単位数が無効となる。取消再履修の対象科目については、毎年度末に公開される。

●な行

ナンバリング 授業科目に適切な番号を付けて分類することで、学修の段階や順序等の体系性を示し、教育課程の体系性を明示する仕組みのこと。学生がレベルや専門を勘案しながら授業科目を履修できる。

入学センター 入学試験やオープンキャンパス、その他入学にともなう事務を扱う部局。【本館 M3 階（キャリアセンターの上階）】

認定留学 海外協定校への交換留学や海外セミナーへの派遣ではなく、学生自らが外国の大学等（語学学校は除く）で学修すること。留学を許可されれば、選考の上、奨学費を支給されることがある。

●は行

配当年次 それぞれの科目を履修することができる年次のこと。自分の学年と配当年次が異なる場合

はその科目を履修することはできない。

博士課程 学部の上位に置かれた大学院の課程。研究者として自立して研究活動を行い、また、その他の高度に専門的な業務に従事するために、必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的としている。標準修業年限は、5年。ただし本学では、博士前期課程（2年＝修士課程）と博士後期課程（3年）に区分している。

バディ制度 海外協定校からの交換留学生の大学生活や日常生活を、本学学生がサポートする制度。国際センターで募集・選考を行う。

ハンドアウト 配付用の印刷物、プリントのこと。レジュメを指すこともある。

ピア・カウンター ピアとは仲間を意味し、ピア活動は学生同士が支え合いながら、主体的かつ積極的に学内外で活動することを指す。ピア・カウンターでは、ピア活動を通じた仲間づくりや学生同士の助け合い、ボランティア活動による地域貢献や社会貢献を支援している。具体的には、学外からのボランティア派遣依頼の受付や学生への情報提供、マッチングを行うほか、学内ピア活動としての中学生キャンパス見学会のアシスタントスタッフとしての学生の活動支援を行っている。【協創館（8号館）地下1階】

非対面型授業 決められた教室ではなく、遠隔で自宅などでも受けることができる授業。基本的にはオンライン授業になるのでインターネットの環境が必要。オンデマンド授業などがある。

必修（科目） 卒業までに単位修得が必要な科目。

ひろしま未来協創センター 教員への研究支援事業、地域との協働による地域連携事業、公開講座・エクステンション講座・リカレント講座による生涯学習事業、学生のボランティア活動支援等を行っている。【協創館（8号館）地下1階】

復学 休学期間を終えて学業に戻ることに許可された休学期間が終了すると、自動的に復学となる。ただし、許可された休学期間途中で復学は、「復学願」の提出が必要。

副専攻制 主専攻以外の分野の授業科目を体系的に履修させる取り組み。主専攻に対して他の学部・学科・分野を副専攻とし、要件を満たす30単位以上を修得し、申し出たものに対して、副専攻修了証が交付される。（2023年度以前生対象）

不正行為 定期試験等の受験中に、他人の答案用紙を見たり、カンニングペーパーを使用するなど、許可されていない行為をすること。試験を受ける際は『学修マニュアル』の「試験」に掲載の受験心得を熟読し受験すること。不正行為があったと認められた学生は、直ちに受験中止を命じられ、学則、試験細則及び学生の懲戒に関する規程により処罰される。停学処分となった場合は、その試験期間中の全試験科目が不合格となる。

ブックハンティング 図書館が購入する本を学生の皆さんに直接選んでもらうイベント。読みたい本がある方、図書館を有意義に利用したいという方にはおススメの企画。近年は、図書館内で行う学内ブックハンティングのほか、オンラインによるブックハンティングを実施している。

フリーラボ（自由演習室） 情報センターの自習室。パソコンが空いていれば利用可。入室前に情報センター事務室前の IC カードリーダーに学生証をかざし、利用するパソコン番号をタッチパネルで指定してから利用する。【6号館3階】

プレイスメントテスト 入学時に自身のレベルに応じた科目を履修できるようにするための習熟度を測るテスト。英語では TOEIC Bridge® Listening & Reading IP テストと TOEIC® Listening & Reading IP テストが用いられている。

編入学 教育課程の途中で入学すること。つぎの項目に該当すれば、編入学試験への出願が可能。①大学で2年以上在学し、62単位以上を修得した者 ②短期大学を卒業した者 ③高等専門学校を卒業した者 ④外国において学校教育14年の課程を修了した者 ⑤修業年限が2年以上で、課程の修了に必要な総授業時間数が1,700時間以上の専修学校の専門課程を修了した者。

補講 休講等により不足した内容や時間を補うために行われる講義。また授業の到達水準を合わせるために、予定回数に追加して行われる追加講義を含む。実施日・時限・教室・補講情報は、教学システムで確認可能。

保健室 ケガや病気のとときに応急処置や休養をすることができる。学研災の手続きも行っている。【本館1階】

● ま行

まなびコモンズ 学生が学習するための空間。様々な学習スタイルに対応するため、周りを気にせず自分のペースで学習できる個人学習ゾーンと、グループでの勉強会等にも利用できるグループ学習ゾーンがある。学生の自由な学習活動のほか、学習アドバイザーによる学習相談やワークショップ、教員によるオフィスアワーなども行われる。【協創館（8号館）1階】

まなびホール 大人数での学びのための空間。ワークショップや各種報告会、講演会が開催されるほか、ゼミ発表の練習や学習会など、学生主体で使用することもできる。【協創館（8号館）1階】

まなびラボ まなびコモンズに隣接した、パソコンでの情報収集や文書作成ができる空間。パソコンとプリンターが設置されている。【協創館（8号館）1階】

身分異動 大学生活の中での様々な身分の変化。その中で休学、復学（休学期間満了に伴う復学を除く）、退学、再入学、転部・転科は、事前に保証人や教職員と相談のうえ、教学センターへ所定の用紙を提出すること。

● や行

予備登録 履修を制限する科目は予備登録をしていないと受講できない。予備登録には、大きく分けて①WEB 抽選、②履修予備登録入力票（OCR 用紙）の提出、③担当教員による選考等の三種類がある。該当科目や登録方法などの詳細は、教学センターが行うガイダンスや教学システムのお知らせ等で確認すること。「WEB 抽選」の項も参照のこと。

● ら行

ラーニング・コモンズ 共同学修のためのスペース。2 名以上でプレゼンテーションの準備やグループ討議などに利用することができる。開室時間、利用申込方法など、詳しくは図書館ホームページまたはラーニング・コモンズ内受付にて確認。【図書館 M 2 階】

履修 学科目を学び、その科目の単位を修得することであるが、一般的には、授業を登録していることをさす。

履修細則 学則に基づいて定められた各学部の履修に関する細かい決まり。

履修指導 履修に関するアドバイスを受けること。チューターによる成績不振学生への履修指導、留学や教員免許取得のために受ける教学センターでの履修指導などがある。

履修条件 履修するための要件のこと。例えば演習Ⅱを履修するためには、すでに演習Ⅰの単位を修得している必要がある場合など。

履修制限 履修にあたっての制限・条件。次の 3 つの意味で使われる。① 1 年間や半期に履修できる最大単位数。キャップともいう。②配当年次などで対象者が定められていること。③授業科目に受講者が集中し、支障をきたす場合の受講者数の制限。③の履修を制限した科目は予備登録をしていないと受講できないので注意。詳しくは、教学システム、または『学修マニュアル』を参照のこと。

履修登録 指定登録期間に所定の履修手続きにより、授業科目の中から履修科目を登録すること。前期の指定登録期間に前期科目（第 1 学期・第 2 学期科目含む）、通年科目及び前期集中講義科目を登録し、後期の指定登録期間に後期科目（第 3 学期・第 4 学期科目含む）及び後期集中講義科目の登録を行う。登録できる単位数には上限があり、学部学年により違いがある。登録は、原則として WEB 登録になっている。WEB 履修登録のしかたは、『学修マニュアル』を参照のこと。

ルーブリック 評価水準を示す「尺度」と、各段階の尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される、学習評価の様式。レポートやプレゼンテーションの評価などに用いられる。課題に取り組む際に、ルーブリックが公開されている場合には必ず目を通して、評価基準を理解してから取り組むと有効に活用できる。

留学 本学の留学プログラムには、主に語学を身につけるための「海外セミナー」と、約半年または約

1年間、派遣先大学で講義を受け、単位を修得する「交換留学」がある。そのほか、自ら海外の大学に留学しようとする学生を支援する「認定留学」等がある。詳しくは、『学修ガイドブック』、留学情報サイトを参照のこと。

留年 本学では卒業延期と同じ意味で使われる。4年次終了時に卒業に必要な所定の単位数を修得できず、卒業が延期されること。

臨床心理相談センター 人文科学研究科心理学専攻臨床心理学領域の大学院生のための教育研修機関。
【小学校課程実習棟横】

レジュメ 授業時や研究成果等を発表するときに説明のための資料として配布する印刷資料。フランス語で“要約”のこと。

レポート 大学で課題として提出を求められている論文、報告書。単位を修得するために欠かせない場合が多い。

レポートボックス／レポート提出箱 レポートを提出するためのレターボックス。教学センターの入り口壁側にならんでいる。提出期限を過ぎると受け付けることができないため、提出日時は厳守。

●わ行

ワークショップ 講義のような一方的な知識伝達のスタイルではなく、学習者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で学びあい、作り出す双方向的な学びと創造のスタイルの学習方法。

● 数字・アルファベット

2学期制 授業実施期間を2分割することであり「 Semester制」とも呼ばれている。「学期」の項を参照のこと。

3つのポリシー 大学の個性・特色が具体的に反映される教育方針を示すもので、「学位授与の方針(DP: デイプロマ・ポリシー)」「教育課程の編成方針(CP: カリキュラム・ポリシー)」「学生の受け入れ方針(AP: アドミッション・ポリシー)」がある。

4学期制 授業実施期間を4分割することであり「ターム制」「クォーター制」とも呼ばれている。学期の授業回数を8回で1科目とする形式と、授業回数は15回で週に2回授業を行う形式がある。「学期」の項を参照のこと。

5年プログラム 通常6年かかるところを5年で学士と修士の学位を取得する制度。学部の3年次終了時に成績優秀で大学院進学を希望する学生は、4年次に「特別科目等履修生」として大学院の授業科目が履修でき、大学院進学後、この制度で修得した一部の単位について既修得単位として認定を受けることができるため、大学院進学後1年で修士の学位を取得することが可能になる。

alpha アカウント（アルファアカウント） 入学時、教学センターガイダンスで交付される利用者 ID のこと。教学システム、シングルサインオンシステム、Shudo Moodle、Google Classroom 等へログインするとき必要となる。

alpha メール（アルファメール） alpha アカウントに紐づいたメールアドレス。最近では特に Moodle 上で教員と情報交換するための必須ツールとなっている。メールの送受信はシングルサインオンシステムの画面上で行う。

『CAMPUS LIFE』 学生センターが発行している、学生生活全般にわたるガイドブック。入学時のオリエンテーションで配布される。学生生活上の諸注意や困った場合の窓口、制度、手続き、設備・施設の案内など幅広く網羅している。

GLS (Global Learning Studios) 協創館 2 階の教室の総称。語学授業やメディア教材を活用した授業、グループ学習やプレゼンテーションの授業などが行われる。ことばラボでは、語学の自習ができる。【協創館(8号館) 2階】

Google Classroom (グーグルクラスルーム) Google が提供している、ネットワーク上で課題などが出せるサービス。オンデマンド授業で用いられることがある。alpha アカウントでログインし、授業課題情報などで示されたクラスコードを入力すると利用できる。

Google Meet (グーグルミート) Google 社が提供する WEB 会議システムで、テレビ電話、チャットのほか、資料や画面共有をすることができる。

GPA Grade Point Average の略。成績評価点平均 (単位数重み平均)。本学では、成績評価点により GPA を算出している。【GP = (評価点 - 55) / 10】

GPS-Academic 社会で活躍するために必要な「問題解決力」を測るテスト。オンラインで実施されており、本学も導入している。毎年受検することで、大学生活での成長を可視化し、自分の強みを確認できる。

iCafe (アイカフェ) 多言語多文化の環境で学習や交流ができる場所。留学生による語学講座や国際交流のイベントも多数行われる。iCafe の運営をサポートする iCafe ピア制度がある。【協創館(8号館) 1階】

IC カードリーダー 教室に設置されている授業への出席を登録するための機械。学生証を軽く触れ、ピッと音がすると、出席調査が完了する。出席の取り扱いは、授業開始 15 分前から授業開始後 10 分まで。10 分を過ぎると作動しなくなり欠席扱いになる。出席調査の項参照。

iHouse (アイハウス) 「インターナショナルハウス」の項を参照のこと。

- Microsoft Teams (マイクロソフトチームズ)** Microsoft が提供している、コミュニケーションツール。オンデマンド授業で用いることが多い。事前に Microsoft に alpha アカウントの登録が必要。
- OPAC** Online Public Access Catalog の略。通称オーパック。本学図書館の所蔵資料を探すための検索システム。図書館内では 11 台の専用 PC で、館外からは図書館ホームページからアクセスすることができる。スマートフォンやタブレット端末でも利用可。詳しくは冊子『QUEST』を参照のこと。
- 『QUEST』** 図書館発行の、レポートや論文を作成するためのガイドブック。図書館の利用方法、OPAC の使い方、図書や雑誌論文の検索方法、レポート・論文作成方法などについて説明されている。図書館ホームページの「利用支援」から PDF で閲覧可。
- RA (アールエー)** インターナショナルハウス(iHouse) で生活しながら留学生の日々の生活をサポートする本学学生スタッフ。iHouse での交流イベントの企画・運営も行う。レジデント・アシスタントの略。
- SA (エスエー)** 本学学部・大学院の学生が、授業中又は授業外で他の学生の支援を行う制度。チューデントアシスタントの略。
- Shudo moodle (ムードル)** 本学が学生・教員向けに提供している学習管理システム (LMS)。WEB 上で授業の資料の共有や動画視聴、課題提出などができる。担当教員と直接メッセージをやりとりする機能もある。
- ShuNavi (シューナビ)** 広島修道大学オリジナルの就職支援システムのこと。学生は大学に寄せられた求人情報を大学でも自宅でもインターネット上で検索できる。また、就職ガイダンスや各種セミナーの情報がチェックでき、相談や模擬面接等の予約ができる。
- ShuR (シューアール)** 学習カルテシステムのこと。学生の学習面のパフォーマンスを記録し、学修指導に活かすためのシステム。学生基本情報、単位修得状況、GPA などが閲覧できる。
- TA (ティーエー)** 本学大学院生が、授業担当教員の指導のもと、授業の企画・立案、授業運営等に携わる制度。ティーチングアシスタントの略。
- TOEFL®** 通称トーフル、トフル。英語を母国語としない人々の英語コミュニケーション能力を測るテストとして米国で開発された。本学で英語圏への交換留学に応募するには、一定水準のスコアが求められる。本学には留学促進を目的として TOEFL®受験料の補助制度がある。
- TOEIC®** 通称トエイック。英語によるコミュニケーション能力を幅広く測定する世界共通のテスト。本学では新入生のプレースメントテストとして採用しているほか、年に 2 回団体受験として学内で受験できる機会を設けている (TOEIC® Listening & Reading IP テスト及び TOEIC Bridge® Listening & Reading IP テスト)。

『Truth』 大学の公式広報誌。年3回発行し、大学の旬な情報をたくさん掲載している。在学生や保証人、高校生などを対象に学長室総合企画課が発行。学内では、学生センターや教学センター、キャリアセンターなどのカウンターに置かれている。

WEB シラバス シラバスをWEB上で公開したもの。教学システムから見る事ができる。公式WEBサイトからもたどることができる。URLは <http://syllabus.shudo-u.ac.jp/>。履修したい科目については、履修登録前に必ず参照すること。

WEB 抽選 全学共通科目及び各学部主専攻科目の一部で行っている履修予備登録方法。授業開始より前の所定の期間中に実施される抽選にエントリーすること。WEB抽選の結果「当選」となった科目のみ履修登録する。「当選」した科目は取り消すことができないので要注意。事前に時間割を考えた後、抽選にエントリーすることが望ましい。

WSP (World Stage Program: ワールド・ステージ・プログラム) 「修道スペシャルプログラム」の一つとして位置づけられる。WSPにおける「ステージ」には、留学に必要な語学要件や留学後の語学力向上の目安を示す「段階的ステージ」と、世界とつながる経験をする「舞台(ステージ)」の二つの意味があり、学生一人ひとりに寄り添った、さまざまな「ステージの創出」を支えるための新しい留学支援プログラム。WSPの詳細、登録方法は本学公式WEBサイトおよび留学情報サイトを参照すること。

Zoom (ズーム) WEB会議サービスの名称。

主に参考・引用した資料

- 文部科学省「学士課程教育の構築に向けて」(答申)用語解説
- 大学設置基準
- 大学院設置基準
- 愛媛大学教育企画室 用語集
- 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構大学質保証ポータル
- 北海道大学高等教育機能開発総合センター(現 高等教育推進機構)HP用語解説
- 広島修道大学学則
- 広島修道大学各学部履修細則, 諸規程
- 広島修道大学公式WEBサイト
- 広島修道大学WEBシラバス
- 『学修の手引き』
- 『学修ガイドブック』
- 『学修マニュアル』
- 『CAMPUS LIFE』